

2026年度事業計画

1. 2025年度の進捗状況

2025年度（3月末まで）の事業運営は、概ね予算通りに推移している。各事業は計画に沿って実施され、財務面においても大きな乖離は生じていない。

2. 同窓会の位置づけ、および会費収入の現状と課題

最終学歴としての教育機関は、その評価は卒業生の活躍によって決定づけられる。このため、同窓会は卒業生を応援してゆくための施策を、時代変化に応じて行ってゆく必要がある。

まず、少子化の影響により、新入生から徴求する同窓会会費は年々減少傾向にある。現状では、飛躍的な会費増加を見込むことは困難であり、会費収入に依存した運営体制には限界が見えている。

また、同窓会の余剰資金は少なくなっており、将来の安定的な事業継続に向けて、独立した法人格をもち、財務基盤の強化も検討する必要がある。

3. 今後の基本方針：自立運営体制の確立

会費収入の減少を前提としつつ、同窓会が自立的に運営できる体力を確保するため、収益を生む事業の創出を最優先課題とする。

- 事業化の推進
- 会員価値を高めるサービスの拡充
- 母校・在校生との連携強化
- 中長期的な財務基盤の安定化
 - ・卒業生ビジネスとの協働（掲載料・広告）
 - ・賛助会員制度の検討
 - ・法人格取得後の寄付金税制活用（ただし、公益社団法人、または認定NPOに限られる）

これらを柱として、持続可能な組織運営を目指す。

4. Web 事業の強化：「すがお Project」の推進

既に稼働しているホームページは、多くの閲覧者を獲得し、同窓会の情報発信基盤として機能している。

広告機能として、食糧学院に興味を持ってもらうよう、この学校を卒業後にどのような人生を送っているかを、そして、様々な卒業生の活動も含めホームページに掲載する。

つまり、本 Web 事業は、広く食糧学院に入学を検討して頂く方に、学院選択の一助となる情報として提供することも目的とする。

2026 年度には、以下の取り組みを実施する。

● すがお Project の本格展開

- ・ 会員のプロフィール・キャリア・経験を積極的に公開
- ・ 在校生が卒業生のリアルな姿に触れられる仕組みを構築
- ・ 卒業生同士のネットワーク形成を促進
- ・ 母校の教育活動・キャリア支援にも寄与

Web を通じた「つながりの可視化」を強化し、同窓会の存在価値を会員に認識してもらう。

● レストランマップの再編集

- ・ ホームページへの掲載
 - ・ 卒業生が活躍する企業・店舗・事業所など、掲載対象範囲の拡大
-

5. リアル事業の拡大：「ふれあい」の再定義

従来の「ふれあい懇親会」は継続しつつ、より幅広い形での交流機会を創出する。

● 新たな「ふれあい」の形

- 教員・学生・卒業生が気軽に参加できる小規模交流会
- 低予算で実施可能なフランクなイベント
- 在校生のキャリア相談会やOB・OG訪問の場づくり
- 学院行事との連携による相乗効果の創出

リアルな接点を増やすことで、同窓会の存在感を高め、会員価値の向上につなげる。

6. 渋沢栄一記念財団との連携強化

同窓会の創業に深く関わった渋沢栄一先生を広く伝えるため、記念財団への加盟を進める。

- 渋沢栄一が想起した教育・啓発活動の展開
- 財団主催イベントとのコラボを模索
- 同窓会主催イベントへの財団からの後援可能性を探る
（「渋沢栄一の思想」「企業倫理」「歴史」「地域文化」などの関係が前提）

同窓会ブランド価値向上と、学院の歴史的背景の再認識を会員に促す。

7. 財務方針：2年間の投資期間（赤字決算）

上記の事業を推進するため、今後2年間は計画的に予算を投入し、赤字決算を許容する方針とする。

- Web基盤の強化
- 会員名簿の整備（データ整備、および日本人以外の登録を含む）
- すがおProjectの構築
- 収益性を担保した新規イベントの立ち上げ
（レストランマップの再編集による掲載料、企業サイトのリンクによる広告費など検討）
- 組織運営体制の整備

これらを長期的な自立運営体制の確立を目指した、「未来への投資」と位置づける。

8. 中長期ビジョン：法人化と母校との建設的關係構築

将来的に学友会を法人として立ち上げ、会員の賛助を得られる体制を構築し、母校である食糧学院と対等な立場で議論できる組織体制を整える。（同窓会機能の中身を充実する）

- 是々非々で意見交換できる関係性
- 必要に応じて学院への提言を行う機能
- 卒業生・在校生・学院の三者が Win-Win となる仕組みづくり

同窓会が主体性を持ち、学院の発展に寄与しつつ、卒業生の利益を守る組織へと進化することを目指す。

まとめ

本計画は、同窓会が将来にわたり持続的に発展するため、「転換期」としての初年度計画として位置づけるものである。

会費減少という構造的課題に正面から向き合い、同窓会として整備すべき事項や継続的な会員サービスを強化する。Web・リアル事業双方を用いて事業を展開し、組織としての自立性を高めることで、卒業生・在校生・学院の三者にとって価値ある同窓会を実現していく。